

令和 8 年度

「運営に関する計画」

大阪市立大淀小学校

令和 8 年 4 月

大阪市立大淀小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 大淀小学校では、これまで道徳教育や幼小連携の取組を中心として、学校全体に「いじめを許さない」「互いに助け合う」文化が育ちつつある。しかし、学力経年調査の結果からは、児童の自己肯定感について一定の伸びが見られるものの、依然として全国平均と比較すると高い水準とは言えず、学年差も大きいことが課題として明確になっている。実際に「自分にはよいところがある」と回答した児童は全体で77.1%にとどまり、全学年での目標達成には至っていない。
- 学習面では、国語・算数の平均正答率は市平均を上回る学年が多く、基礎学力は一定水準にあると評価できるものの、「授業がよくわかる」と自信を持ってない児童が存在し、自己有用感の低さが学習面にも影響していると考えられる。また、友だち同士の話し合い活動を通して考えを深める力が十分に育っていない児童もあり、協働的な学びの質の向上が求められている。
- 幼小交流については、全学年で実施され、特に1年生では肯定回答が94%と高い満足度を示した。一方で、他学年では肯定回答が84%にとどまり、目標の90%に到達していない。交流の頻度や活動設計の質によって成果に差が生じていることから、活動目的の明確化と児童の自主的な関わりを促す改善が必要である。
- 学校生活満足度では、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は83.8%と全学年で80%を超え、一定の成果が見られるものの、目標の85%には届いていない。授業や行事の主体性を高める工夫、安心して過ごせる学級づくりがさらに求められる。
- 体力面では「運動が好き」と回答した児童が68.8%で目標を達成し、体育科の「友だちと高め合う学び」に一定の成果があるものの、多様な運動経験の不足や活動場所の制約により、さらなる改善が必要である。また、理科や外国語については肯定回答が目標に届いていない学年が多く、児童の主体的な学びを引き出す指導改善が求められる。
- ICT活用では、全学年で学習者用端末の活用が定着し、10月以降は活用率90%超、1月には100%を達成するなど、大きな成果が見られた。学習の理解促進や意見表現の場として端末活用が広がり、「パソコンでの学習が役立つ」と回答する児童も市平均を上回っている。調べ学習や「心の天気」による児童理解も進み、今後はより深い学びを実現する活用の質の向上が課題である。
- 働き方改革の面では、教職員の時間外勤務を市平均より5時間以上下回るなど、学校としての業務改善が進んでいる。ゆとりの日や閉庁日の運用改善、持ち帰り業務の把握と医師との共有などの取組が成果を上げており、引き続き職員の働きやすい環境づくりが求められる。
- 読書活動では、図書室の環境改善や図書委員会の取組により「読書が好き」と回答する児童が72%となり、大阪市平均を上回ったが、さらに読書習慣を定着させるため、読書週間等の企画を継続・強化する必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いま すか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。(R7：85%)
- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありま すか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R7：77.1%)。
- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。(R7：-0.76)
- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。(R7：-0.7)
- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む） やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。(R7：68.7%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ③ 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ④ 学校アンケートにおける「幼小交流を通して、幼稚園児と一緒に楽しく活動することができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。(R7：-0.7)
- ② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。(R7：-0.76)
- ③ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R7：78.8%)
- ④ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。(R7：最も肯定的 37.6%)
- ⑤ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む） やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
(R7：68.7%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。(R7：92%)
- ③ 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下の教職員の割合を 70%以上にする。(R7：65%)
- ④ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R7：72%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立大淀小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ① 令和 8 年度末の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。 ② 令和 8 年度末の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ③ 令和 8 年度末の小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ④ 令和 8 年度末の学校アンケートにおける「幼小交流を通して、幼稚園児と一緒に楽しく活動することができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
目標①の取組内容【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】（升谷） ・たてわり班活動を充実させ、異学年の児童が関わり合う機会を増やすことで、異学年交流を深める。	
指標 ・学校生活アンケートの「たてわり班活動は協力してできましたか」の項目に対して、「そう思う（だいたいそう思う）」という回答を 88%以上にする。	
目標②の取組内容【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（吉井） ・児童の自己肯定感を高めるために、各学年で自己肯定感を向上するためのキャリア教育の取組を行う。	
指標 ・各学年で自己肯定感を向上するためのキャリア教育の取組を年 1 回以上実施する。また、学校生活アンケートの「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合をどの学年においても 80%以上にする。	
目標③の取組内容【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】（武富） ・いじめアンケートを学期に一度定期的に実施し、児童の困りごとや不安を把握するとともに、教職員が連携して適切に対応し、児童が安心して相談できる体制を整える。	
指標	

・「いじめアンケート」を、前期・後期1回ずつ実施し、児童の困りごとや不安に耳を傾ける。また、学校アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	
目標④の取組内容【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（大槻） ・どの学年も年間計画に沿って幼小交流活動を実施し、児童が園児と関わる取組を行うことによって自尊感情を高めることができるようにする。また、幼稚園年長園児と小学1年生を対象に、「幼保小架け橋プログラム」の取組を実践する。 指標 ・全学年が1回以上、幼小交流活動に取組、学校アンケートで「幼小交流を通して、幼稚園の園児と一緒に楽しく活動することができましたか」という問いに「そう思う（だいたいそう思う）」という回答をどの学年も90%以上にする。また、幼（年長）と小（1年生）を対象に「幼保小架け橋プログラム」の取組を2回以上実践する。	
年度目標の成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① ② ③ ④	
次年度への改善点	
① ② ③ ④	

大阪市立大淀小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ① 令和8年度末の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R7：-0.76) ② 令和8年度末の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R7：-0.7) ③ 令和8年度末の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R7：78.8%) ④ 令和8年度末の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。(R7：最も肯定的な児童37.8%) ⑤ 令和8年度末の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(R7：68.7%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
目標①の取組内容【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(中井) ・国語科において、児童の読む力・書く力の定着と向上を図るため、各学年の実態に応じて「言語活動」を中心とした授業改善を行う。また、目的意識をもって文章を読んだり、自分の考えを文章に表現したりする機会を意図的に設定するとともに、学習内容を振り返り、言葉の力を蓄積できる指導を行う。	
指標 ・国語科の学習において、各学年の児童の実態に応じた「読むこと」「書くこと」を中心とした指導の工夫を、各学年年1回以上行う。	
目標②の取組内容【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(庄司) ・算数科において、児童の学習の定着をはかるために各学年児童の実態に応じて学習形態を工夫する。また、デジタルコンテンツを使用し、児童が主体的に復習できる環	

境を整え、学習内容の定着を図る。	
指標 ・算数科の学習において、各学年児童の実態に応じた指導の工夫を、それぞれ年に1回以上行う。デジタルコンテンツを使用した学習の振り返りを月に1回以上行う。	
目標③の取組内容【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(大西) ・児童が興味・関心をもって主体的に理科の学習に取り組むことができるように、児童の実態に応じた学習形態を工夫する。	
指標 ・理科の学習が実生活と結びつくような仮説実験および出前授業、施設の利用を各学年で年間1回以上行う。	
目標④の取組内容【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(鑑水) ・児童が自分の考えを深めたり広げたりすることができるように、学習中に話し合い活動の時間を設定する。	
指標 ・学校アンケートの「毎日、学級の友だちと話し合う活動を行うことができましたか」という問いに「そう思う」という最も肯定的な回答を40%以上にする。	
目標⑤の取組内容【基本的な方向5 健やかな体の育成】(泉) ・児童が運動する楽しさを実感し、体力の向上や学びへの意欲につながるよう、全員が参加しやすい体育的行事を計画的に実施する。	
指標 ・児童が運動する楽しさを実感できるよう、運動会などの体育的行事を工夫し、学期に1回以上実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① ② ③ ④ ⑤	
次年度への改善点	
① ② ③ ④ ⑤	

大阪市立大淀小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ① 令和8年度末の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。 ② 令和8年度末の小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。(R7: 92%) ③ 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下の教職員の割合を70%以上にする。(R7: 65%) ④ 令和8年度末の小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。(R7: 70.4%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
目標①の取組内容【基本的な方向6 教育DXの推進】(佐藤宏) ・児童の心身の状態を日常的に把握し、安心して学校生活や学習に取り組めるよう、「心の天気」の inputs を習慣化する。	
指標 ・児童の心身の状態を日常的に把握するため、「心の天気」の inputs 率を80%以上にする。	
目標②の取組内容【基本的な方向6 教育DXの推進】(濱本) ・「navima」などのデジタル教材を活用し、児童が学習者用端末に日常的に親しみながら、自分のペースで学習を進めることができるようにする。 ・4年生以上の学年では、各学期に1回以上、インターネットを活用した調べ学習を行い、必要な情報を選び、考えを深める力を養う。	
指標 ・学校生活アンケート「学習者用端末を使うと、学習が分かりやすくなったり、考えをまとめたり、伝えたりすることができましたか」という問いに対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R7: 83%)	
目標③の取組内容【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(福井・田部)	

・教職員が心身にゆとりをもって子どもと向き合えるよう、週に1回の「ゆとりの日」を設定し、計画的・効率的な働き方を進める。 ・学校閉庁日の日数を増やしたり、始業式・終業式を弾力的に運用したりすることで、年次有給休暇を取得しやすい勤務環境を整える。	
指標 ・教職員が心身にゆとりをもって子どもと向き合えるよう、時間外勤務の月平均時間を17時間以下にする。(R7:17時間03分〈R8.2までの累計平均〉)	
目標④の取組内容【基本的な方向8 生涯学習の支援】(中南) ・司書教諭と連携し、図書室の活性化に取り組む。 ・読書週間の企画や昼休みの図書室開放を行うことで、児童の読書意欲を高めることができるようにする。	
指標 ・学校生活アンケート「読書は好きですか」という問いに対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。(R7:49%)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① ② ③ ④	
次年度への改善点	
① ② ③ ④	